



『振り返り、成長する』

9年 副担任

福井地区夏季大会が終わりました。大会に参加したみなさん、お疲れさまでした。そして、県大会に進出した部活動のみなさん、おめでとうございます。合唱部や技術部のみなさんは、これからが頑張りどころですね。

みなさんは、この3年間の部活動を通して成長できましたか？大会では1つでも勝ち上がり上位を目指す。この目標のもと、日々練習に励んできたことと思います。充実した練習を行うためには、仲間との繋がりを大切に、泣いたり、笑ったり、喜怒哀楽を共にしてきたのではないのでしょうか。残念ながら地区大会で終わってしまったみなさん、最後の試合の後には涙が出ませんでしたか？涙が出た人、それは何に対しての涙なのでしょう。負けたくない相手だったから？そのメンバーでできる最後の試合だったから？最後の大会を終えた後は、ぜひ、振り返りを行ってほしいと思います。後悔のない部活動を過ごせたと言えることが一番だと思いますが、そうではないこともあると思います。3年間の活動を振り返り、何を学んだのかをよく考えてみてください。

7年生の何もわからないとき、先輩たちが教えてくれたこと。

8年生になり、後輩ができたときのこと。

9年生まで、応援してくれた家族のこと。

これらのことだけでなく、もっと他にもあるでしょう。その時々良かったこと、悪かったことがあると思います。しかしその都度、みなさんは自分たちで改善点を見つけ、よりよい活動になるよう努力してきたのだと思います。先輩たちを超え、常に前に進むために努力することこそが、みなさんが学んできたことではないのでしょうか。

また、自分を中心に振り返るだけでなく、自分の回りにも目を向けて振り返ってみてください。3年間みなさんが活動するには、保護者の方の支えなくしてはできなかったことでしょうか。大会会場は準備されているのが当たり前になっていませんでしたか？そこには、施設を管理して下さった方、準備・運営をして下さった方など、多くの人たちの支えがあるのです。そのことに気付いた人は、感謝する心を学んだはず。学校外での活動に励んできた人もいます。それぞれの活動を終えた後、しっかりと自分を振り返ったとき、成長した自分が見えてくるのではないのでしょうか。

さて、学校では、9年生最大のイベントでもある体育祭・文化祭の準備が始まっています。本校の伝統は先輩を超えるという気概のなかで、新しい文化を創り上げていくこと、50年以上の歴史の中で、その学年らしさが光っています。このような活動に挑戦していくことが、最も思い出に残る行事になる理由の一つであると思います。それぞれの活動を通して成長したみなさんが、これらの行事を最高の思い出にするために力を発揮してくれることを期待しています。



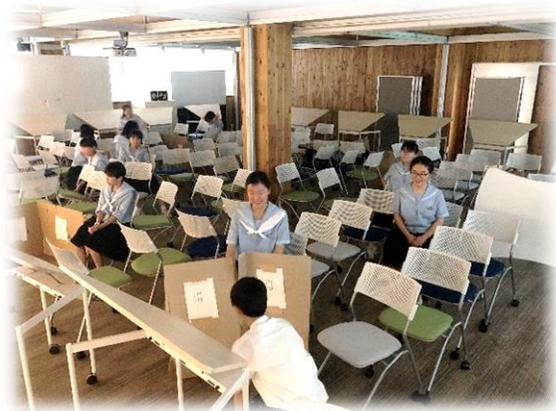
○生徒の活動の様子

～カルチャー教室(6/27)～

生憎の天気で、急遽企画が変更となった委員会もありましたが、今年も生徒会主催のカルチャー教室が開かれました。各委員会では、これまで入念な準備がされてきました。その甲斐あって、どの教室もとても楽しそうに活動していました。

○国語委員会

「難読漢字迷路」



○社会委員会

「貿易ゲーム」



○理科委員会

「紫芋カップケーキの科学」



○英語・技家委員会(共催)

「Let's cooking!」



○図書委員会

「しおりづくり」



○整美委員会

「石けんづくり」



○保体委員会

「キンボール」



○生活委員会

「附族句会」



～壮行会(7/4)～

今年度の壮行会は、執行部の発案で、「全校円陣」が初の試みとして行われました。大会に出場する人はもちろん、出場しない人も、「附族」として一丸となり夏季大会に挑むことが確認できた、素晴らしい壮行会でした。





～道徳の授業より(7/4)～



『明かりの下の燭台』 著：大松 博文

～あらすじ～

—形あるものの中には、必ずそれをささえてくれるものがある。「明かりは必ず燭台に置く。」とキリストは言った。人はその明かりを見るけれども、燭台は忘れる。しかし、燭台はなければならないものだ。— …本文より

東京五輪女子バレーボールチームという「明かり」を、「燭台」として献身的に支えた一人のマネージャーの姿を見つめた監督の手記。選手としての参加を強く望んだ彼女にとってそれは決して本意ではなかった。しかし彼女はその役割に専心し、心身ともチームのために尽くして責任を全うした。そしてチームの金メダル獲得という目標の達成。充実感に包まれたチームの中で、誇り高く成長した自分を意識する。

○授業のふりかえりから

チームなどの集団で何かをする時、目立つのはリーダーだけど、縁の下の力持ちがいないと、そもそも何も出来ないんだなと思いました。私は雑用とかはあまり好きではありません。でもそういう人が嫌がる事もしていかないといけないなと思いました。それも、いやいやするのではなく、人のため、役に立つためと思ってすれば、自分のやりがいにもつながるのではないかと考えました。

これからは、自分のことだけでなく人の役に立つための行動をたくさんしていきたいと思いました。

A 組生徒

このチームの中で一番成長したのは、鈴木さんだろうと思う。やはり、自分がやったことに対して意義付けが出来るのは本人だけだ。鈴木さんは、自分が今まで勝つため、優勝台に立つために続けてきた努力をうちに秘め、マネージャーに徹した。最初は「今までの努力が無駄になった」や、「なんで私が」などと思っただろうが、4年後には、自分にしか出来ないことを見つけ、自分がやることの意義、誇りを持ってやる事が出来ていた。きっと「今まで努力したから出会えた」や、「私が一番皆を理解している」と思っているだろう。

僕はこの話を通して、取り組み方が結果として表れる、つまり、過程が大事なんだなと思った。

A 組生徒

私はこの文を読んで、すごい人の裏には、鈴木さんのような支えている人がいるということが分かりました。そして、今演劇に取り組んでいる私たちにとって、すごくためになる話だなと感じました。

演劇は、目立つ人はキャストですが、その裏では照明や音響など、多くの仲間が支えて出来ます。私も人前に出て、目立つことはないですが、良い演劇に出来るよう、これから頑張っていきたいなと思いました。

B 組生徒

もう、部活も引退するし、部活にマネージャーがいたわけでもなくて、マネージャーがどうい存在なのかもよく分からないが、自分の部活と重ね合わせてこの話を読んだら、マネージャーという形じゃなくても、メンバーが全員、メンバーを支えているんだなと思った。今、部活を引退する前になってすごく思う。

マネージャーという形じゃなくても、親（家族）とか、一緒に戦ってくれたメンバーとかに、自分は大きく支えられていたんだなと感じた。今、この時期にこの話が読めて良かったと思う。

B 組生徒

私たちは、常に「明かり」の部分しか見えないし、「明かり」の部分しか見ていないと思うが、この物語を読んで燭台があってこそ明かりがあると思った。

鈴木さんは、自分がプレーをしたくてチームに入っただろうにマネージャーを引き受け、弱音も吐かずにチームを支え、優勝へと導いた。私だったら絶対に引き受けないのに、明るく振る舞ってメンバーにとって無くてはならない存在になれた鈴木さんを尊敬した。「明かり」は注目を浴びるし、輝いているが私は無理して「明かり」になろうとせず、感謝の気持ちを忘れないことを意識したいと思った。また、鈴木さんのように人を支えられる、良い燭台にもなりたかった。

C 組生徒

自分への見返りがなくてもただ相手のことだけを思って尽くすことの出来る鈴木さんはすごい人だと思います。最初からそんな気持ちではなかっただろうから、燭台になっているうちに見つけた楽しさもあるとは思いますが、最初に頼まれて引き受けることは、とても難しいことだと思います。今までの私だったら自分の好きなことができなくなるのは嫌だし、自分が貢献できるかより、やりたいかを考えてしまうと思いました。でもやりたいことをしているときは必ずそれを支えてくれている人がいることを忘れないで、もし自分がその立場になれば迷わず頑張れる人になりたいです。

C 組生徒



～演劇準備～

いよいよ、本格的にスタートをきった、演劇準備の様子をお届けします。



A 組

最後の場面の演出について、全員で協議しました。

B 組、C 組

部門ごとの活動です。できあがりつつある小道具も見受けられます。



背景幕の作りかたや、音響、照明など部門ごとに、道具の使い方などのガイダンスを受けました。

